

■今月のポイント ～単収・食味UPを目指して～

- ① 水管理：冷害を回避するため、7月中旬から深水管理ができる準備をしましょう。
- ② **追肥**：生育ステージと幼穂形成期の葉色を見極め、適期に適量を施用しましょう。
- ③ 病害対策：穂いもち予防剤は適期散布を実施しましょう。
- ④ カメムシ対策：出穂10日～15日前(7月21日頃)までに草刈りを行いましょう。

展示圃の生育状況 (ひとめぼれ)

茎数は1株当りの本数

	草丈(cm)	茎数(本)	葉数	葉齢差比
7月5日	58.4	28.7	9.9	
平年値	53.6	27.4	10.2	△0.3
平年対比	109%	104.7%	97.1%	

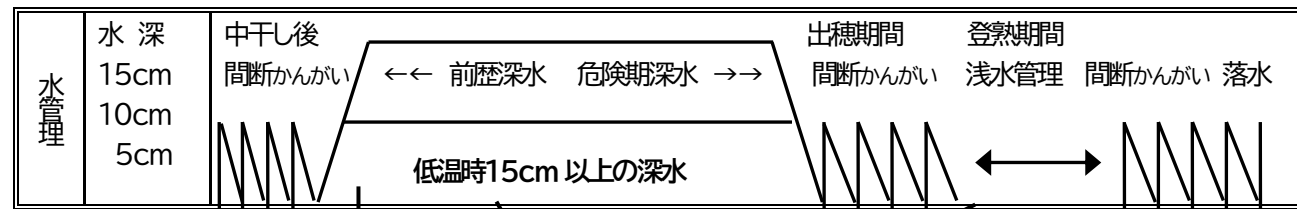
生育状況

6月～7月にかけて日中は好天の日も多く気温も平年より高く推移し生育は順調に進んでいます。7月5日現在の生育状況は葉数は平年を下回っているものの、草丈・茎数については平年を上回る値を計測しました。6月下旬の梅雨入り以降も降水量は少なく、中干しについても順調に経過しています。葉色についてはやや薄い傾向ですので本資料の追肥の項を参照し追肥施用の判断を行いましょう(生育調査で測定した葉色の値も平年値を下回っています)。

【R6 梅雨入り6/23(速報値)】(平年梅雨入り 6/15 頃、梅雨明け 7/28 頃・R5 梅雨入り 6/9、梅雨明け 7/22)

今後のスケジュール **ポイント①**：冷害を回避するため、7月中旬から深水管理ができる準備をしましょう。

17℃以下の低温が予想される場合は、深水管理を実施し稲体を保護してください。



生育時期	幼穂形成期迄	幼穂形成期	減数分裂始期～減数分裂終期	出穂期	穂揃期	登熟期
水管理	間断かんがいする。	4～6cmの水深とする。 幼穂の伸長に合わせ徐々に水深を深くする。 低温が予想される場合は10cm以上の深水にする。	気温17℃以下の低温が予想される場合は15cm以上の深水にする。 全く低温の心配がない場合は間断かんがいとする。	3～5cm程度の浅水管理とし、落水状態は避ける。 出穂開花期は、稲が大量の水を必要とするので受粉障害が発生しないように田面を露出しない	気温が日中30℃以上(夜間が23℃以上)の高温時は、夜間間断かんがい(夜:入水 朝:自然落水)により、乳白粒の発生を防止しましょう。	落水時期まで間断かんがいとする。(徐々に入水期間を短くし、田面が湿っている程度とする。)
穂いもち	圃場巡回	予防剤散布	圃場巡回(いもちが見られる場合は、直ちに茎葉散布)			
カメムシ	畦畔等の草刈(出穂10～15日前まで)			薬剤散布 穂前1週間後		

※穂前期～登熟初期の高温は品質低下(乳白粒等の発生)の要因となるので、特に水管理には注意しましょう！

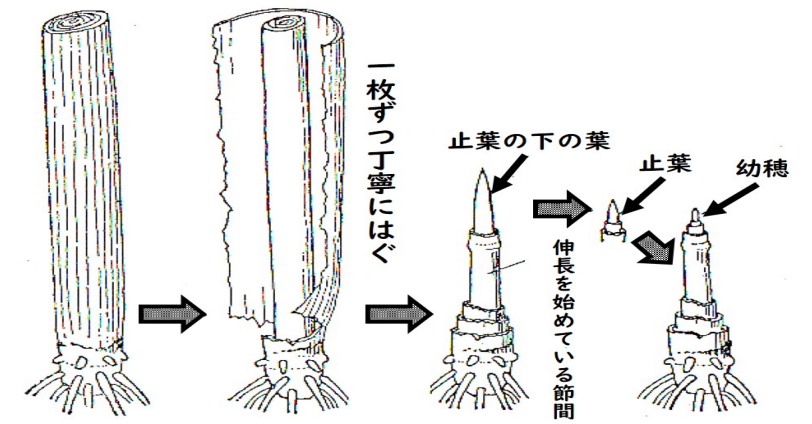
今後の生育予想(7月9日現在) 幼穂形成期・減数分裂期の確認をしながら管理にあたりましょう。

標高・地区	品種	田植時期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂
白鳥	ひとめぼれ	5/11	7/11～	7/17～	8/1～
前沢(高台)		5/12	7/12～	7/18～	8/2～
前沢(平場)		5/9	7/9～	7/15～	7/30～
古城(高台)		5/4	7/4～	7/10～	7/25～
古城(平場)		5/5	7/5～	7/11～	7/26～
白山		5/5	7/5～	7/11～	7/26～
母体		5/9	7/9～	7/15～	7/30～
赤生津		5/18	7/18～	7/23～	8/8～

生育の見分け方

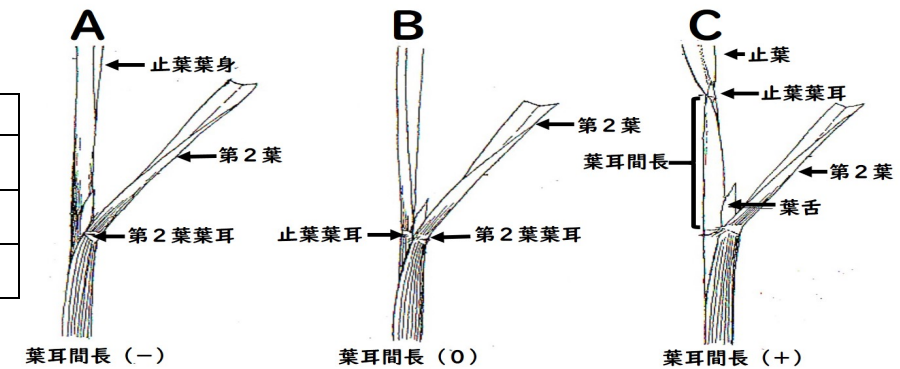
■ 幼穂による見分け方

生育経過	出穂前日数	幼穂長
えい花分化期	27～28日前	1mm
幼穂形成期	23日前	2mm
減数分裂期	16日前	50mm



■ 葉耳間長による減数分裂期の見分け方

	生育経過	出穂前日数	葉耳間長
A	減数分裂 始 期	16日前	-10cm
B	減数分裂 最盛期	11日前	± 0cm
C	減数分裂 終 期	7日前	+10cm



追肥 **ポイント②**：幼穂形成期に葉色を確認し、適量を施用しましょう。

- ① 圃場の生育状況【葉色】・【幼穂長 2mm～】を確認してから追肥(窒素成分で1～2kg/10a程度を上限)をしましょう。
- ② 減数分裂期でも葉色がさめない場合は追肥を行わないようにしましょう。
- ③ 楽々ライ夢くん 20一発などの緩効性肥料(セラコート肥料)を使用した場合は、追肥を行わないようにしましょう。
- ④ 出穂期以降の追肥(8月に入ってから)は食味を低下させる原因となるので、絶対に行わないようにしましょう。
- ⑤ 追肥は乳白粒発生を抑える重要な管理方法となります。夏の暑さを乗り切るためにも、適正な施用を行いましょう。



1. 追肥の施用時期と施用量(成分量)の目安(ひとめぼれ) (10a当り)

カラスケール 基準値	幼穂形成期 (出穂23日前)	減数分裂期 (出穂16日前)	追肥の考え方
4.0未満	窒素成分量 1.0kg~2.0kg		幼穂形成期 1.0kg、減数分裂期に 1.0kg と2回に分けて追肥を検討(窒素成分量 2.0kgを上限)。
4.0~5.0	窒素成分量 1.0kg~2.0kg	-	幼穂形成期を重点に追肥を実施する。
5.0を超える 場合	-	窒素成分量 1.0kg	※葉色がさめるのを待ち、減数分裂期ま でに追肥を実施する。

※ 葉色だけで判断せず、草丈、莖数を加味して総合的に判断しましょう。判断が難しい場合はJAにご相談ください。



カラスケールを活用し、適正な追肥を行いましょう！
資料センターで取り扱っています。

2. 追肥肥料現物量の目安 (10a 当り)

栽培	肥料名	窒素成分で 1.0kgの場合	窒素成分で 1.5kgの場合	窒素成分で 2.0kgの場合
特別栽培米	ふるさと有機入り水稲追肥	10kg	15kg	20kg
ふるさと純情米	NKC17号	6kg	9kg	12kg

※特別栽培米「ふるさと有機入り水稲追肥」は現物で上限が20kg/10aとなります。超えないようにご注意ください。
例)すでに現物で10kg/10a追肥した場合は、今回は残り10kg/10aの範囲での追肥になります。
肥料を間違えたり、使用量を超えたりすると特別栽培米から外れますので、ご注意ください。

病害対策 ポイント③:穂いもち予防剤は、適期散布を実施しましょう。

1. 穂いもち予防剤

区分	薬剤名	防除時期	散布量/10a	注意点
特別栽培米	ゴウケツ 1キロ粒剤	出穂25~ 15日前	水面施用 1kg	【ゴウケツ・フジワン共通】 ・1キロ粒剤及びび粒剤は3cm程度の 湛水状態で散布。 ・パックは10cm程度の湛水状態で 投げ入れる。 ・散布後7日間は止水とする。
	ゴウケツ 粒剤		水面施用 3~4kg	
	ゴウケツ パック		水面施用 45g ×小包装10パック	
ふるさと純情米	フジワン 1キロ粒剤	出穂20~ 10日前	水面施用 1~1.5kg	
	フジワン 粒剤		水面施用 3~5kg	
	フジワン パック		水面施用 75g ×小包装10~15パック	

※特別栽培米は「ゴウケツ」のみ使用可能となります。またふるさと純情米については、上記薬剤以外の使用も可能ですが、
春肥料施肥設計指導会資料の「令和6年用JA岩手ふるさと農薬指定品目一覧」をご確認の上、使用願います。
※無人へり防除は「ゴウケツ」の散布となります。

2. 葉いもち茎葉散布(治療剤)

※葉色の濃い部分、例年発生する水田、転作から復元した水田は特に注意して観察してください。
なお、いもち病の発生を確認した場合は、直ちに治療剤を茎葉散布しましょう。
※特別栽培米で、いもち病の茎葉散布剤を使用した場合、ふるさと純情米になりますが防除を最優先にしましょう。
※農薬ラベルを確認し(使用時期・使用回数)、同一成分を含む薬剤の連用はしないようにしましょう。

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	本剤の使用回数	散布量/10a
ダブルカット粉剤3DL ダブルカットフロアブル	発生を確認したら散布。 状況に応じて2回目は7日 ~10日後に散布 ※但し、同じ薬剤の連用は 避ける	穂揃い期まで	2回以内	*粉剤 3~4kg *フロアブル 1000倍液 60~150ℓ
ブラシン粉剤DL ブラシンフロアブル		収穫7日前まで	2回以内	

3. 紋枯れ病対策

薬剤名	防除のタイミング	使用時期	本剤の使用回数	散布量/10a
バリダシン粉剤DL	出穂直前~出穂期	収穫14日前まで	5回以内	3~4kg 散布
バリダシン液剤	出穂直前~出穂期	収穫14日前まで	5回以内	100倍液を60~150ℓ

※特別栽培米でも使用可能です。
※水口側、水尻側で25株ずつ計50株観察し、発病株数10株以上あれば防除を行いましょう。

カメムシ対策 ポイント④:出穂10日~15日前(7月21日頃)までに草刈りを行いましょう。

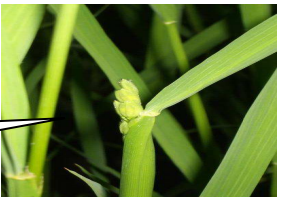
耕種的防除

※畦畔の草刈りが基本です。水田にカメムシが寄りにくい環境作りが大切です!!
※カメムシはイタリアンライグラス、ノビエ、シズイ・ホタルイ等イネ科植物を好み穂に産卵します。

特に出穂10日~15日前(7月21日頃)までに、カメムシの発生源となるイネ科植物を中心とした
雑草等(転作牧草・畦畔・農道含)を、地域一斉に刈り取ることが効果的です。

※出穂してからの草刈りは、カメムシを水田内に追い込むことになるので避けましょう。

籾ひとつでも顔を出したら、その茎を
「出穂した」と判断します。



~令和6年産GAPチェックシートの取り組み(7月編)~

令和5年産のGAPチェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介していきます。令和6年産では
チェック欄に〇がつくよう取り組んでいきましょう!

「(推奨項目)作業中に行ける場所にトイレがある」(65.6%)
「(必須項目)包装用の資材は、汚染や異物混入を防げる状態で保管されている」(68.5%)
→必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

■水稲の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは...

「前沢地域センター営農経済課」TEL:56-2152 有線:3753
「営農アドバイザー携帯電話」
①090-4478-9930(高橋) ②090-4478-9914(戸田)

■生産資材・生活資材のご注文・配達...

「拠点配送センター」TEL:0120-516-911(フリーダイヤル)

■生産資材等の直取り・窓口供給は...

「前沢資材センター」TEL:56-2238 有線:3711
平日営業時間 午前8:30~午後5:00
休日営業時間(土曜日) 午前8:30~正午
※日祝祭日は休業となります

■奥州エフエム(77.8MHz)では毎週月曜から金曜日朝7:52~と
夕方17:42から営農情報や緊急情報を放送しています。
是非、ご視聴よろしくお願います。

☆ 次回指導会は8月1日(木)・2日(金)を予定しています ☆

LINE 3次元アカウント

友だち 募集中

@703kysml
うれしい情報をLINEでお届け!

LINEにて営農情報を発信中です!
上記QRコードからお友達登録を
お願います。